

Sim'n Tonic

Nome II Manual


For Firmware 5.2

For U-SYNC 1.4.1

本PDFは、Sim'n Tonic Nome II の完全版マニュアルです。

本書を通読することで、この多機能デバイスで可能な操作・機能を一通り把握できます。

本PDFに加えて、以下の**動画ウォークスルー（動画マニュアル）**も参照できます。

 **Nome Walkthrough (Video manual)**

※重要：このウォークスルーは**かなり古い内容**です。

FW 5.0向けの新しいフルウォークスルーを、近日公開予定です。

FW 4.0で追加された新機能のウォークスルー

 **Nome Firmware 4.0 is OUT**

FW 4.5の動画（メトロノーム用途のユーザー向け）

 **Nome FW 4.5 - for Metronome users**

不明点がある場合は、以下で質問してください。

- [The Sim'n Tonic Forums](#)
- [The Sim'n Tonic Facebook Group](#)
- [Or contact Support](#)（可能であれば、公開チャンネルの利用を推奨します）

Nome をお持ちの方は、コミュニティへの共有として、Google に公開レビューを投稿していただくと助かります。ありがとうございます。

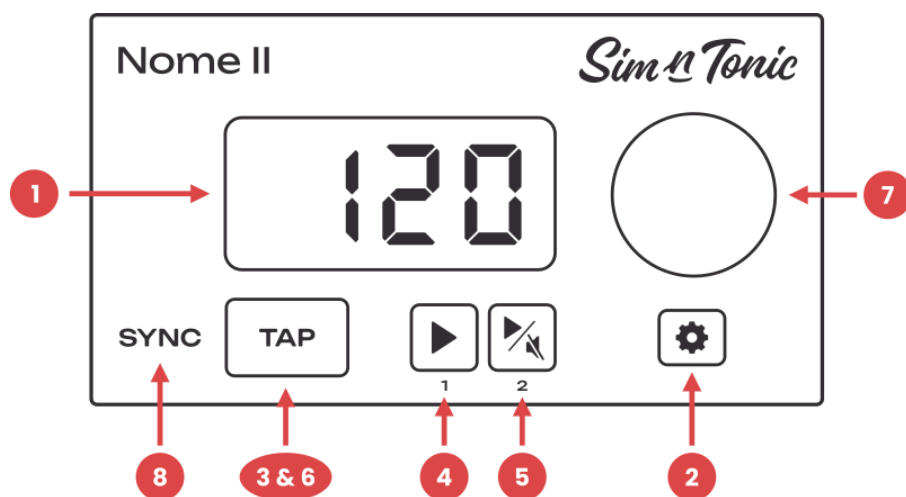
目次

1. ボタンおよび接続端子.....	4
1.1 - 前面部.....	4
1.2 - 背面部.....	6
2. クイックスタート.....	8
3. 設定.....	11
3.1 - 設定の編集.....	11
3.2 - ディスプレイ表示の文字および略号の読み方.....	13
3.3 - Nome 設定に関する考慮事項.....	14
3.4 - 基本設定一覧.....	15
3.5 - 詳細設定一覧.....	19
3.6 - メトロノーム拡張設定（ソフトウェアでのみ設定可能）.....	22
4. テンポプリセット.....	23
4.1 - テンポプリセットの保存と管理.....	23
4.2 - テンポプリセットの適用.....	24
5. USB 通信とコマンド.....	25
5.1 - クロックインターフェース.....	25
5.2 - DAW コントロール.....	26
5.3 - モジュールインターフェース.....	26
5.4 - MIDI フォワーディングインターフェース Out 1 & 2.....	26
5.5 - MIDI コマンド.....	27
5.5.1 - テンポ変更.....	27
5.5.2 - テンポ小数値の変更.....	27
5.5.3 - 拍子の変更.....	28
5.5.4 - メトロノームのミュート／解除.....	28
5.5.5 - アナログクロック速度の変更（“An.1” および “An.2” 設定）.....	28

5.5.6 -テンポプリセットの適用.....	29
5.5.7 - シーケンサーの開始／停止.....	29
6. 外部同期 — 他の機器や DAW に同期する.....	31
6.1 - アナログクロックまたはオーディオ信号への同期.....	31
6.2 - U-SYNC を使用した DAW との同期 (Mac)	32
6.3 - 24P モードを使用した DAW との同期 (Windows)	32
6.4 - USB 経由の MIDI を使用して DAW を Nome に同期する.....	33
6.5 - シーケンサーの自動開始／停止.....	34
7. 追加機能.....	35
7.1 - 複数の Nome の同期.....	35
7.2 - テンポ小数値.....	36
7.3 - カウントインとカウントオフ.....	36
7.3.1 - カウントイン：Nome によるカウント.....	37
7.3.2 - カウントオフ：演奏者によるカウント.....	37
7.4 - Smart Tap Tempo によるライブタイミングへの追従.....	38
7.5 - Time Nudging による外部機器とのタイミング調整.....	39
7.6 - 「Tempo Following」モードによるライブドラマーへの追従.....	40
7.7 - Nome の電源オフ.....	40
8. Nome ファームウェアの更新.....	41
8.1 - 更新する理由.....	41
8.2 - 更新方法.....	41
8.3 - カスタム／ベータ／アルファファームウェアの読み込み方法.....	42
8.4 - トラブルシューティング.....	43
9. エラー報告およびファームウェアクラッシュ.....	44

1. ボタンおよび接続端子

1.1 - 前面部



1. ディスプレイ - 現在のテンポ、または現在選択中の設定／値／情報を表示します。
2. セットアップボタン - 設定画面への移行および終了に使用します。長押しすると、本体の電源がオフになります。
3. タップテンポボタン
4. プレイボタン 1
 - MIDI Out 1 に接続された機器の開始／停止を行います。
 - 長押しすると、接続機器の再同期／再スタートを実行します。
5. プレイボタン 2
 - 基本動作は Play Button 1 と同様ですが、MIDI Out 2 用です。
 - メトロノームのミュート機能として割り当て可能です（「PL.2」設定を参照）。

6. タップLED - テンポに同期して点滅します。
(ダウンビート：紫色、その他の拍：黄色)












7. ノブ

- 回転：テンポ変更、または設定／値の変更
- 押下：決定、またはテンポ小数点の切替

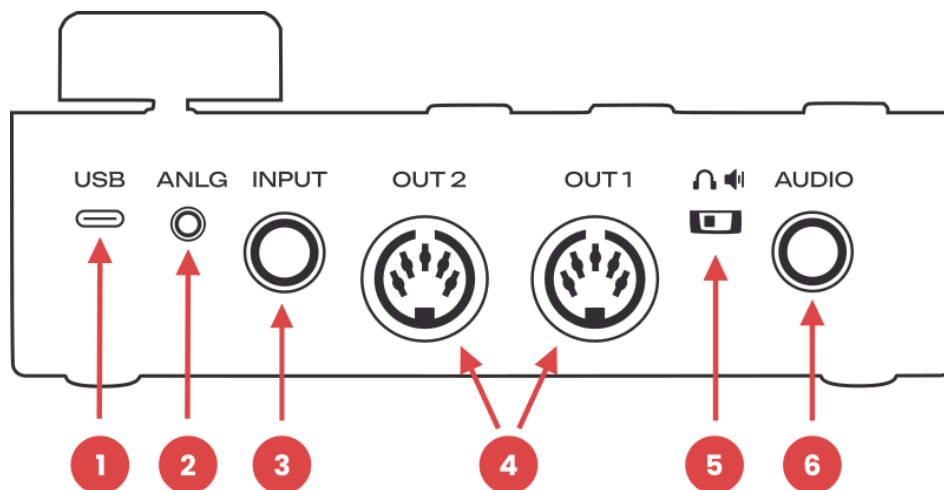
8. シンクLED

- **黄色**：U-SYNC に同期中
- **紫色**：外部オーディオ信号に同期中
- テンポをタップ入力している間、各タップ時に一時的に**緑色または赤色**で点滅します。

コンボ操作:

- 長押し  + ノブ回転  メトロノームの音量を調整します。
- 長押し  + 押下  または  タイミングを前後に微調整します。
- 長押し  + ノブ回転  前のプリセット／次のプリセットを適用します。
- 長押し  タップ操作  より素早いテンポ変更入力を行います。
(平均化処理は行われません)
- 長押し  + 長押し  **(1秒間)** テンポをロックします。
(詳細は「クイックスタート」を参照)

1.2 - 背面部



1. USB Type-C 端子

- 本体への電源供給
- コンピューターとの USB 通信

2. CV / アナログ / DIN Sync クロック出力

- 3.5mm TRS 端子 (ステレオミニジャック)
- Tip および Ring の両方から**5V アナログパルス信号**を出力します (モジュラーシンセ用クロック)
- ヴィンテージ機器向けの****DIN Sync (sync24) ****に設定可能
 - DIN Sync 使用時は、**TRS → DIN Sync 変換アダプター**が必要です



3. マルチファンクション入力

- 6.35mm TRS 端子 (ステレオ標準ジャック)
- ペダルを 2 台接続可能 (Tip / 左、Ring / 右)
- ドラムパッド接続可能 (テンポ / 拍子入力用)
- 外部同期信号入力可能 (詳細は「外部同期」セクション参照)

4. MIDI出力

- MIDI Clock、MIDI Start / Stop、USB-MIDI フォワードの信号を送信します
- Start / Stop は**各ポートごとに独立制御可能**

5. ヘッドフォン／ライン出力切替スイッチ

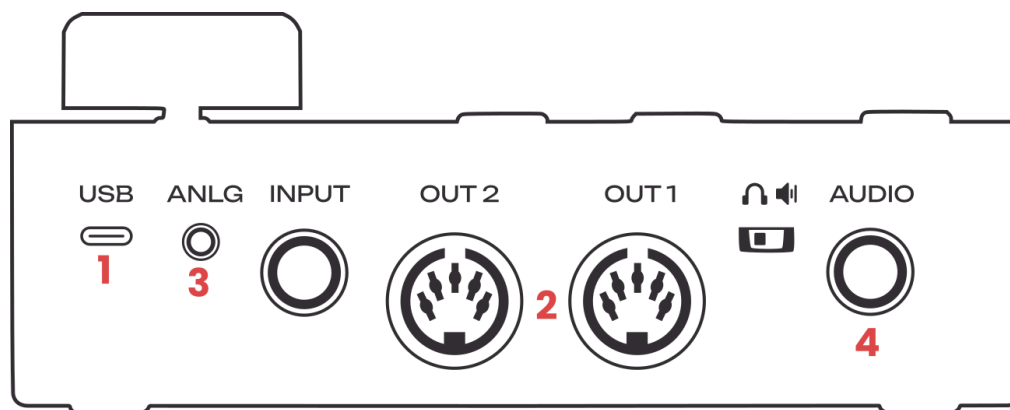
- Audioアウトの出力をヘッドフォン() またはバランスライン() に切り替えが出来ます

6. 音声出力

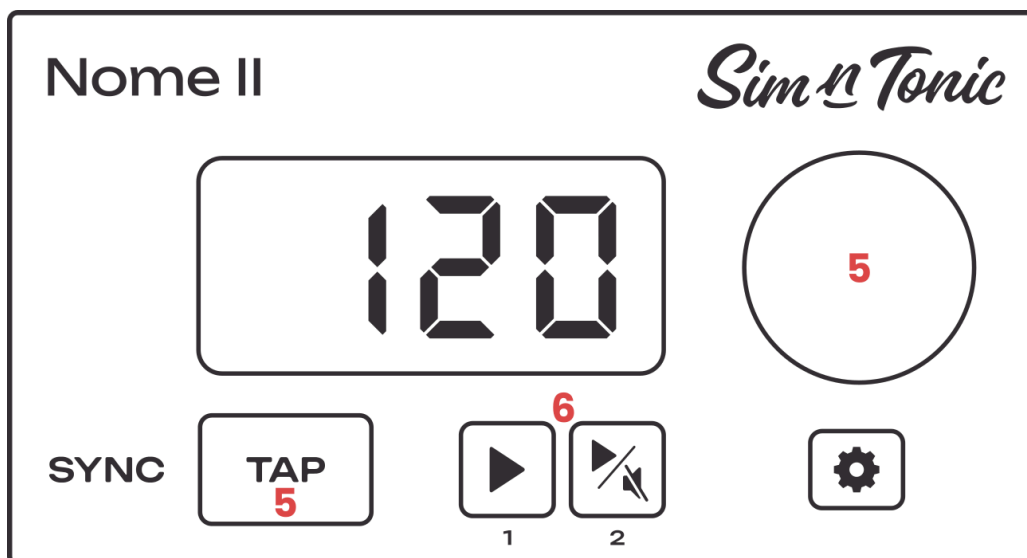
- 6.35mm TRS 端子 (ステレオ標準ジャック)
- メトロノームクリック音を出力
- 本端子へ **ファンタム電源 (+48V)** を供給しないでください

2. クイックスタート

まず、本体背面に各種ケーブルを接続してください。



1. 電源供給用に USB ケーブルを接続します
2. MIDI 機器の **MIDI IN (入力端子)** へ MIDI ケーブルを接続します
 - 接続した機器が外部 MIDI Clock に同期する設定になっていることを確認してください
3. モジュラーシンセヘクロックを送信する場合は 3.5mm ミニジャックケーブルを接続します
4. メトロノーム音を確認する場合はヘッドフォンを接続します



これで、接続された機器同士は同期状態になります。以下の操作が可能です。



5. テンポの変更:

- ノブを回す → テンポ変更⁽¹⁾
- ノブを押しながら回す → テンポ小数点の設定
- タップテンポ → タップ入力にタイミングを合わせる

6. MIDI シーケンサーの開始／停止 (MIDI Out x → Play ボタン x)

その他の操作:

- Setup ボタンを押しながらノブを回す → メトロノーム音量の変更
- いずれかの Play ボタンを押すと:
 - ボタンが点滅
 - 次の小節で再生が開始され、ディスプレイ表示は (Play) へ切り替わります
PLA
 - 長押し → 再同期／リwind信号送信 (**54n**)
 - 短押し → 接続機器の停止 (**5to**)
- メトロノームのミュート／解除: 第2 Play ボタンをミュートボタンとして設定可能
(「PL.2」設定参照)

-  と  両ボタンを1秒間長押し→テンポロック
 - ディスプレイ表示は **Loc** (**Loc.** 解除時)
 - テンポ変更後はノブ押下による確定が必要
 - これにより大きなテンポジャンプが可能
 - 以下の場合、テンポロック不可:
 - 該当設定が **inP** または **24P** or **54n** の場合
 - U-SYNC 経由で DAW 接続中
 - このモードではCount-off、Smart Tap Tempo、テンポ小数点調整が無効

(1)

- **高速回転**→ 整数テンポへジャンプ (例: 120.46 → 125.00)
- **低速回転**→ 小数点維持 (例: 120.46 → 121.46)


この設計により誤操作による小数点消失を防止

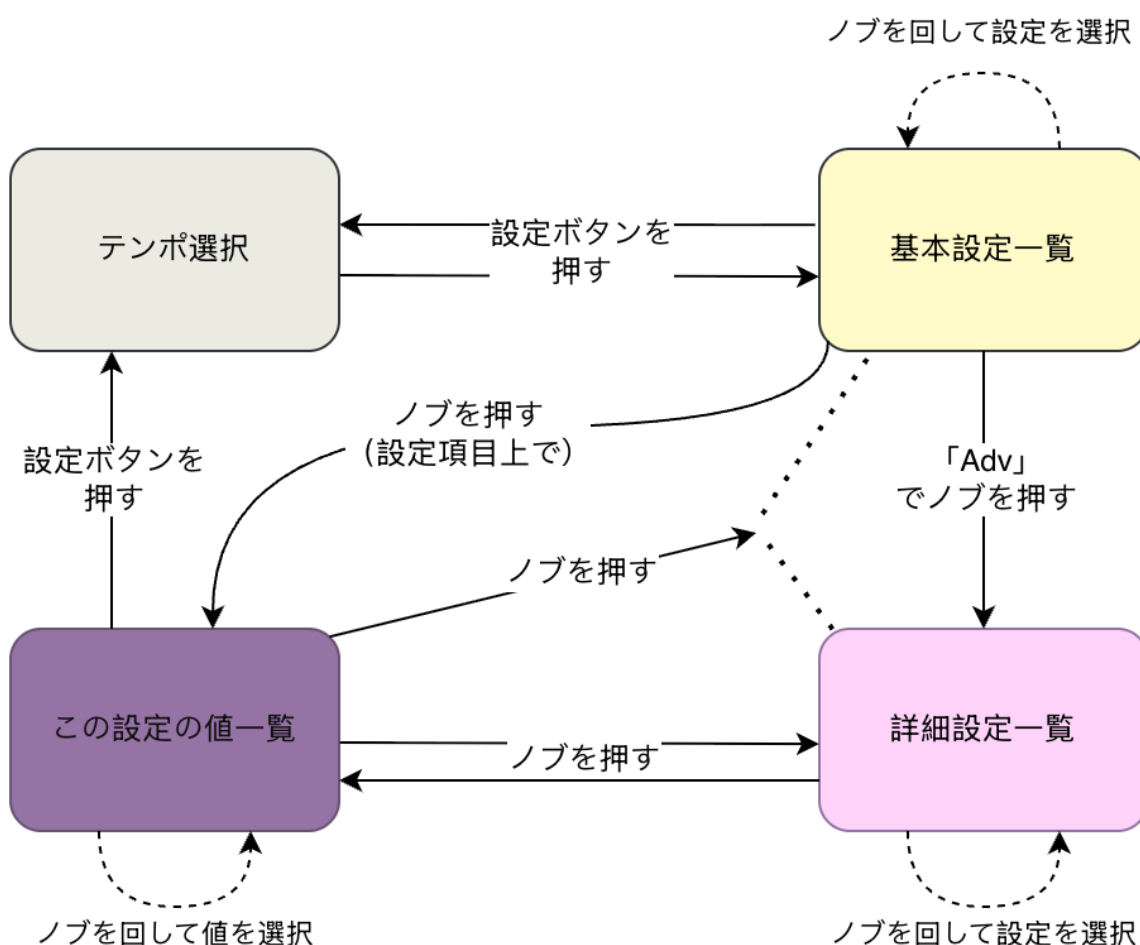
3. 設定

設定とは、Nome の動作および反応を変更するための各種構成オプションです。例えば、ボタン操作時の挙動や機器接続時の挙動などを制御します





Nome は非常に多機能なデバイスであるため、多数の設定項目が用意されています。ただし、通常はすべての設定を変更する必要はありません。ご使用の環境に合わせて必要な設定のみを調整してください。基本的には、初期設定を行えば、以降は通常通りご使用いただけます。

3.1 - 設定の編集

設定画面へは、**Setup ボタン**を押してアクセスします。ノブ操作は  回転 → 設定項目の選択／値の変更、押下 → 設定値の確定／保存になります。



操作段階	ノブ操作	ディスプレイ表示例
テンポ選択	テンポを変更します	120
基本設定一覧	選択中の設定項目を変更します	Uo.1
詳細設定一覧	選択中の設定項目を変更します	PEd
設定値一覧	設定値を変更します	OFF

Setup ボタンの表示色は  現在の操作段階に応じて変化します:   

すべての設定は、自動的に保存され、変更内容は即時適用されます。設定内容は、ファームウェア更新後も保持されます。例外事項がある場合は、変更履歴に記載されます。

3.2 - ディスプレイ表示の文字および略号の読み方

ディスプレイの表示内容は、慣れていない場合、やや分かりにくく感じる場合があります。

Nomeでは、以下の表示アルファベットを使用しています。

A	b	Cc	d	E	F	G	H	Ii	L
<i>A</i>	<i>b</i>	<i>Cc</i>	<i>d</i>	<i>E</i>	<i>F</i>	<i>G</i>	<i>H</i>	<i>Ii</i>	<i>L</i>
M	n	Oo	P	r	S	t	uU	vV	y
<i>M</i>	<i>n</i>	<i>Oo</i>	<i>P</i>	<i>r</i>	<i>S</i>	<i>t</i>	<i>uU</i>	<i>vV</i>	<i>y</i>

ドットは区切り記号として使用されます。例えばこれは *APL* Auto-Playの略号です。

設定名称は、**3文字の略号**で表示されます。これらの略号は可能な限り分かりやすく、一貫性を保つ設計となっています。

<i>CL.1</i>	<i>CL.2</i>	<i>Vo.1</i>	<i>Vo.2</i>	<i>SIG</i>	<i>inP</i>
Click		Volume 1&2		Time Signature	INPUT
クリック音 1&2		音量		拍子	プラグ
<i>APL</i>	<i>AnL</i>	<i>An.1</i>	<i>An.2</i>	<i>Cnt</i>	<i>LEd br.</i>
Auto-Play	ANLGプラグ			Count-Off	Brightness
自動再生	(1&2)			カウントオフ	明るさ

基本設定

Adu
Advanced 詳細設定

詳細設定項目

<i>PEd</i>	<i>PE.2</i>	<i>PE.t</i>	<i>Mute</i>	<i>rES</i>
Pedal + type			Mute	Reset
ペダル1&2 + タイプ			ミュート	再同期
<i>PL.1</i>	<i>PL.2</i>	<i>MIDI</i>	<i>MIDI</i>	<i>PrE</i>
Play buttons		MIDIクロック		Presets
再生ボタン 1&2		MIDI出力2		テンポプリセット

以下は、主に設定値などで使用される略号です。

- **o1 & o2**: MIDI Output 1 / 2 (本体背面)
- **bot**: 両方の MIDI Output (1 および 2)
- **PLA**: 再生機能 (Start / Stop 操作が可能な状態)
- **con**: 常時有効 (常にオンの状態)
- **FOL**: Play 連動 (Play ボタン操作後に有効)
- **FOn**: Mute 連動 (メトロノーム非ミュート時に有効)
- **din**: DIN Sync モード (sync24)
- **Syn**: 再同期 (Resync) 主に MIDI 出力および ANLG 出力へ送信

3.3 - Nome 設定に関する考慮事項

設定項目は多数ありますが、その大部分は非常にシンプルな内容です。まずは設定一覧に軽く目を通し、利用可能な機能を把握してください。ご自身の使用環境に関係のない設定については、特に変更する必要はありません。

多くのユーザーは初回設定時に調整を実施し、以降は設定画面を再訪しないという使用傾向が報告されています。

設定負担を軽減するため、設定項目は基本設定と詳細設定の2種類に分類されています。詳細設定は、通常頻繁に変更されるものではありません。

本体が MIDI Output 1 / 2 のいずれかを選択する必要がある場合、**MIDI Output 1 が優先されます。**

- TAP LED、Mute 機能、ANLG 出力これらが「Play 連動」に設定されている場合は MIDI Output 1 の再生状態に従います
- DIN Sync モード時の ANLG 出力は MIDI Output 1 に従います
- 第1 Play ボタンを両 Output 制御に設定した場合は MIDI Output 1 の状態に基づき点灯します

一方で、出力先が明示されている場合、Nome は適切な出力を選択します。

- ANLG Ring / Right 側の設定 **An2** は MIDI Output 2 に従います (**An1** は MIDI Output 1 に従います)
- 第2 Play ボタンは常に MIDI Output 2 を制御します
- に設定された2台のペダルは、それぞれ対応する Output を制御します

3.4 - 基本設定一覧

設定表示	内容	設定値
CL.1	Click 1 のクリック音 (ダウンビート)	OFF (サウンド OFF) or クリック音 1 ~ 59, or ユーザー定義クリック U.1, U.2, U.3, or U.4 ⁽¹⁾
CL.2	Click 2 のクリック音 (その他の拍)	クリック音 1 ~ 9 → 自然音 (録音サウンド), クリック音 10 以上 → デジタル音
Vo.1	Click 1 の音量 ⁽²⁾	クリック音量: 1 ~ 9 (6dB ステップ)
Vo.2	Click 2 の音量 ⁽²⁾	
SIG	拍子	<p>小節の拍子を設定します。1/2 ~ 32/16 (16 は 6 と表示)</p> <p style="text-align: center;"> 4.2 4.4 8.8 16.6 </p> <p style="text-align: center;"> for 4/2 for 4/4 for 8/8 for 16/16 </p> <p style="text-align: center;">(default)</p> <p>(分母を素早く変更する場合: ノブを押しながら回転)</p>
inp	INPUT プラグモード	<p>OFF 入力無効</p> <p>PEd ペダルモード (デフォルト)</p> <p>PAd Drum Pad / Trigger モード ⁽³⁾ (Tap Tempo)</p> <p>FOL Drum Pad / Trigger モード ⁽³⁾ (Tempo Following) ※ 未実装</p> <p>IP to 24P 外部同期 (External Sync) オーディオ / アナログ x ppq 信号 ^{(3) (4)}</p>


<p>APL</p>	<p>オートプレイモード</p>	<p>OFF オートプレイ無効 (デフォルト)</p> <p>bot 出力1 & 2 を自動再生。同期開始時に両ポートが再生状態に (外部同期セクション参照)</p> <p>1.1 MIDI Output 1 のみ自動再生</p> <p>1.2 MIDI Output 2 のみ自動再生</p> <p>(2系統のANLG出力は、それぞれ対応するMIDI出力に常に追従するため AnL 設定が FOL の場合、ANLG出力も再生状態になります)</p>
<p>AnL</p>	<p>アナログクロックモード</p>	<p>CON クロックを常時出力 (デフォルト)</p> <p>FOL Play 状態に追従してクロック出力</p> <p>din DIN Sync / Sync24 出力モード (ヴィンテージ Roland ドラムマシン対応) 例: TR-303 など</p>
<p>An.1</p>	<p>アナログクロック1 スピード</p> <p>(ANLG TRS端子の Tip左チャンネルに出力される)</p>	<p>OFF 出力無効 (常時 0V)</p> <p>'1 to '24 クロック信号を送信します。設定範囲: 1 ~ 24 ppq (ppq = Pulses Per Quarter Note)</p> <p>run Run ゲート信号。再生中 → 5V 停止中 → 0V ⁽⁵⁾</p> <p>STA 再生開始時および停止時にパルス / トリガー信号を出力します ⁽⁵⁾</p> <p>RES 再生開始時および再同期時にパルス / トリガー信号を出力します ⁽⁵⁾</p>
<p>An.2</p>	<p>アナログクロック2 スピード</p> <p>(ANLG TRS端子の Ring右チャンネルに出力される)</p>	<p>2 to 99 設定した間隔でパルス信号を出力します。設定範囲: 2 ~ 99 クォーターノート毎</p> <p>(AnL 設定が din に設定されている場合、スピード設定は無効化され、非表示になります)</p>

<p><i>Cnt</i></p>	<p>カウントオフモード</p>	<p><i>OFF</i> カウントオフ無効（デフォルト）</p> <p><i>bot</i> テンポをタップするとMIDI/ANLG 出力 1 & 2 が停止中の場合にカウントオフが開始されます</p> <p><i>n.1</i> テンポをタップすると、MIDI/ANLG 出力 1 が停止中の場合にカウントオフが開始されます</p> <p><i>n.2</i> テンポをタップすると、MIDI/ANLG 出力 2 が停止中の場合にカウントオフが開始されます</p> <p><i>mut</i> テンポをタップすると、メトロノームミュート中の場合にカウントオフが開始されます</p>
<p><i>LED</i></p>	<p>TAP LED 表示モード</p>	<p><i>OFF</i> TAP LEDの点滅表示を無効にします</p> <p><i>CON</i> LED を常時点灯にします（デフォルト）</p> <p><i>FOL</i> “Follow” -LEDはPlay状態に追従します</p> <p><i>FOL</i> “Follow Mute” -LED は Mute 状態に追従します</p>
<p><i>br,</i></p>	<p>ディスプレイの明るさ</p>	<p><i>100</i> から <i>800</i> の間でディスプレイおよびすべてのLEDの明るさを調整します</p>
<p><i>Adv</i></p>	<p>詳細設定</p>	<p>詳細設定一覧を表示します</p>

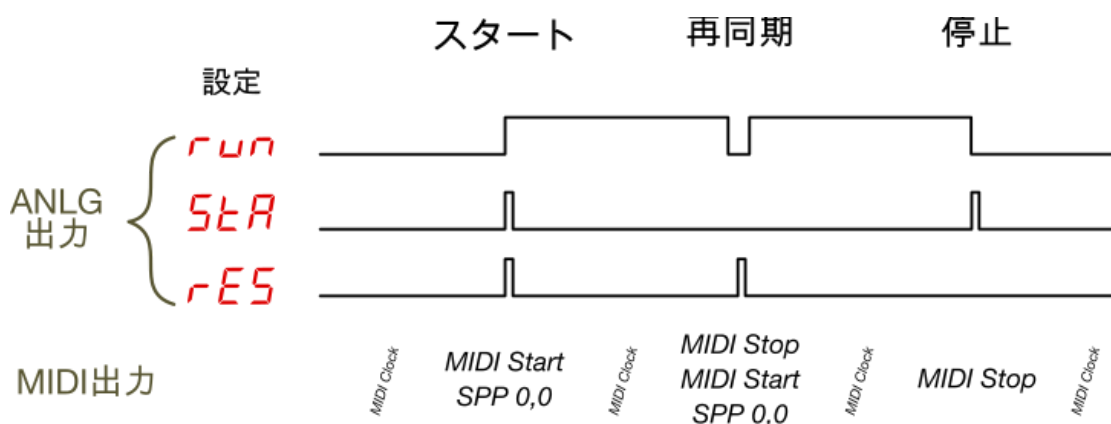
(1) ユーザー定義クリック音は、Sim'n Tonic Config Tool を使用して本体へアップロードできます。

(2) 設定画面外では、Setup ボタンを押しながらノブを回すことで、両クリック音量を素早く調整できます。

(3) *PAD FOL*, または *1P ~ 12P* を選択すると、テンポ LED の点滅は停止し、パッド入力または外部オーディオ／アナログパルス信号に反応します。これにより、入力信号の音量／強度を確認できます。

(4) xP は「x ppq (x Pulses Per Quarter Note)」を意味し、クォーターノートあたりの分割数を示します。ノブ  を長押しすることで *24P* と *54n* を切り替えられます。(None 同士の同期用)

(5) これら 3 つのオプションをより理解しやすくするため、以下の図を参照してください。



3.5 - 詳細設定一覧

設定表示	内容	設定値
PEd	ペダル機能 ⁽⁵⁾	<p>mut メトロノームのミュート／解除(デフォルト)</p> <p>PLA 再生／停止 ⁽¹⁾</p> <p>TAP タップテンポ ⁽⁶⁾</p> <p>PrE 次／前のプリセットを適用 ⁽²⁾</p> <p>(この設定を変更すると inp は自動的に PEd に設定されます)</p>
PE2	ペダル 2 機能 ^{(3) (5)}	<p>OFF ペダル 2 無効(デフォルト)</p> <p>mut メトロノームのミュート／解除</p> <p>PLA 再生／停止 ⁽¹⁾</p> <p>PrE 次／前のプリセットを適用 ⁽²⁾</p>
PEt	ペダルタイプ	<p>SUS Sustain - ピアノ用サステインペダルなどのモーメンタリー(瞬時動作)タイプを使用します(デフォルト)</p> <p>LAT Latching - ギターアンプ用フットスイッチなどのラッチ(保持)タイプを使用します ⁽⁷⁾</p>
mut	ミュート機能	<p>nor 通常動作、追従なし(デフォルト)</p> <p>FOL Follow Play - Play ボタン 1 を押すと、メトロノームのミュート／解除が行われます</p> <p>F.O.L. Same as Follow Play - Follow Play と同様ですが、Play ボタンが点滅を開始した時点で自動的にミュートが解除されます (rES が Cnt に設定されている場合に最適です)</p>

<p>res</p>	<p>リセットモード</p>	<p>OFF Play信号は次の小節で送信されます (デフォルト)</p> <p>On Play信号は即時送信され、オーディオメトロノームはリセット/巻き戻しされます</p> <p>Cnt メトロノームをリセット/巻き戻しし、さらに1小節のカウントイン後にPlayを送信します (<i>mut</i> が <i>FOL</i> に設定されている場合に最適です)</p>
<p>PL1</p>	<p>Play ボタン 1 出力</p>	<p>both <i>both</i>-ボタンは両方のMIDI出力に作用します <i>MIDI 1</i>-MIDI出力1のみに作用します (デフォルト)</p>
<p>PL2</p>	<p>Play ボタン 2 機能</p>	<p><i>mut</i> メトロノームのミュート/解除 <i>PLA</i> MIDI 出力 2 のPlay/Stop⁽⁴⁾ 再生/停止 (デフォルト)</p>
<p><i>mid</i></p>	<p>MIDI クロック設定</p>	<p>OFF MIDI クロックは常にオフで送信されません <i>con</i> <i>constant</i>-MIDI クロックは常時送信されます (デフォルト) <i>FOL</i> <i>Follow Play</i>-再生中の出力にのみ MIDI クロックが送信されます (出力が MIDI クロックを送信していない場合、<i>MIDI Start/Stop</i> および <i>SPP</i> メッセージも送信されません)</p>
<p><i>mid</i></p>	<p>MIDI 出力 2 スピード</p>	<p>MIDI 出力 2 における MIDI クロックの分周設定です From '1' = 1/1 (フルスピードでクロック動作-デフォルト) To '8' = 1/8 (クロック速度が 1/8 になります)</p>

- (1) FW 4.0 以降、**PLA** に設定されたペダルは Play ボタンと同様に動作します。短押しでスタート/ストップ、長押しで再同期を行います。ペダルを 1 台のみ使用する場合は、Play ボタン 1 が制御する MIDI 出力(**PL. 1** 設定)に作用します。ペダルを 2 台使用する場合は、それぞれが 1 系統ずつの MIDI 出力を制御します。
- (2) 短押しで次のプリセットを適用し、長押しで前のプリセットを適用します。またはペダルを 2 台使用する場合、ペダル 1 は前のプリセット、ペダル 2 は次のプリセットを適用します。
- (3) ペダル 2 は INPUT プラグの Ring (右チャンネル) 側に対応し、いずれの **inp** 設定と組み合わせても使用できます。
- (4) このオプションを使用している場合でも、ペダル操作、MIDI コマンド、または **input** 設定を **FOL** に変更することで、メトロノームのミュート/解除が可能です。
- (5) 2つのペダルの極性は、設定画面を終了した際および本体の再起動時に自動検出されます。その間はペダルを踏まないでください。
- (6) カウントオフが有効な場合、ダブルタップでシーケンサーを停止、またはメトロノームのミュートを解除します (カウントオフ設定に依存します)。
- (7) ラッチタイプのペダルでは長押し操作ができないため、たとえば前のプリセットの読み込みや再同期といった操作は行えません。

3.6 - メトロノーム拡張設定（ソフトウェアでのみ設定可能）

Firmware 4.5 以降、メトロノームに関するいくつかの追加設定が利用可能です。これらの設定は、Sim'n Tonic Config Tool を使用してのみ構成できます。

これらの設定は、他の設定と同様に本体へ保存されます。

Sim'n Tonic Config Tool 画面	設定表示	設定値
	Click 3 の クリック音 (8分音符)	メトロノームの 8 分音符用クリック音を設定します <ul style="list-style-type: none"> • CL.2 と同じクリック音(デフォルト) • ユーザー定義クリック U.3
	Click 4 の クリック音 (16分音符)	メトロノームの 16 分音符用クリック音を設定します <ul style="list-style-type: none"> • CL.2 と同じクリック音(デフォルト) • ユーザー定義クリック U.4
	Click 3 の音量 (8分音符)	Click 3 のクリック音量を設定します <ul style="list-style-type: none"> • Vo.2 の音量 -12dB(デフォルト) • 音量 1 ~ 9 (6dB ステップ)
	Click 4 の音量 (16分音符)	Click 4 のクリック音量を設定します <ul style="list-style-type: none"> • Vo.2 の音量 -18dB (デフォルト) • 音量 1 ~ 9 (6dB ステップ)

Sim'n Tonic Config Tool を使用して、メトロノーム用のユーザー定義クリック音(i.e. **U.1**, **U.2**, **U.3**, and **U.4**)をアップロードすることもできます。

4. テンポプリセット

Firmware 4.0 以降、本体にテンポプリセットを保存できるようになりました。プリセットは50個あり、各プリセットにはテンポと拍子が含まれます。また Firmware 5.0 以降、プリセットにはテンポの小数値も含まれるようになりました。




4.1 - テンポプリセットの保存と管理



プリセットの保存および削除を行うには詳細設定一覧の *PrE* 項目を選択してください。



1～Xのプリセット一覧が表示されます。ここでXは最初の空きプリセット番号を示し、X-1が最後に保存されたプリセットです。


このプリセットXはE.xx (E=Empty) として表示されます。例えば、すでに1つのプリセットが保存されている場合 (X=2)、*E02* と表示されます。


- 現在のテンポと拍子をプリセットとして保存するには、保存したいプリセット番号を選択し、ノブを長押しします。
 - プリセットが保存されるとディスプレイに *SAU* (SAved) と表示されます。
- 削除できるのは最後に保存されたプリセット(E.xxの直前のプリセット)のみです。
 - 削除するには、そのプリセットを選択し、 と  の両方を同時に長押しします。
 - プリセットが削除されると、ディスプレイに *dEL* (dELeted) と表示されます。

一覧を終了するには、 を押して（詳細）設定一覧に戻るか、 を押して設定を終了し、テンポが表示されるメイン画面に戻ります。



4.2 -テンポプリセットの適用


最後に適用されたプリセットは、常に本体に保存されます。

現在適用されているプリセットを確認するには、設定画面を終了した状態で、 を押

しながら  を 1 回回します。ディスプレイには P.xx(例: **P.02**) が表示され、TAP ボタンを離すまでその表示が続きます。

この時点では新しいプリセットは適用されませんが、そのままノブを回し続けると、次または前のプリセットが適用されます（ディスプレイにも表示されます）。

Play ボタン  または  のいずれかが黄色に点灯している場合（=シーケンサーが再生中）、プリセットは小節の終わりで適用されます。プリセットの適用待ち状態であることを示すため、メインのテンポ表示には点滅するドットが表示されます。

テンポがロックモードのときは、プリセットは読み込まれますが、 を押すまで適用されません。

なお、プリセットはペダル操作または MIDI コマンドから適用することもできます。

5. USB 通信とコマンド

Nome は USB-MIDI クラスコンプライアントに対応しています。コンピューター上には 6 つの MIDI インターフェースが追加されます。

入力 (IN) ×3:

- **Nome II Clock [IN]**- MIDI Clock を DAW に送信します
- **Nome II DAW Control [IN]**- DAW を制御するための MIDI コマンドを送信します
- **Nome II Module Itf [IN]**- Module インターフェースから転送された MIDI 信号

出力 (OUT) ×3:

- **Nome II Commands [OUT]**- Nome 用の MIDI コマンドを受信します
- **Nome II MIDI Out 1 [OUT]**- 受信した MIDI を「MIDI OUT 1」端子へ転送します
- **Nome II MIDI Out 2 [OUT]**- 受信した MIDI を「MIDI OUT 2」端子へ転送します

なお、Windows ではインターフェース名が異なる場合があります。通常は「Nome II」、続いて「MIDIIN2 (Nome II)」「MIDIIN3 (Nome II)」と表示され、出力側も同様に「MIDIOUT2」などの名称になります。これらは上記の順序と同じ並びになります。

重要：最近ファームウェアを更新した後、すべてのインターフェースが表示されない場合は、コンピューターに登録されている Nome の設定を削除してから、Nome を一度抜いて再度接続してください。この操作は、macOS では「Audio MIDI 設定」、Windows では「デバイス マネージャー」から行えます。

5.1 - クロックインターフェース

最初の MIDI IN インターフェース「Clock」は、MIDI Clock と Start/Stop メッセージを送信します。MIDI Clock に同期可能なソフトウェアまたはハードウェアで使用してください。たとえば、DAW を Nome に同期させる用途などに利用できます。

5.2 - DAW コントロール

2つ目の MIDI IN インターフェース「DAW Control」は、特定の操作を実行するための特殊な MIDI メッセージを送信するために使用します。これらのメッセージは、DAW 側で任意の機能にマッピングできます。この機能は **U-SYNC** と組み合わせて使用し、DAW を制御するためのものです（対応している DAW のみ利用可能。詳細は U-SYNC のドキュメントをご参照ください）。

5.3 - モジュールインターフェース

このインターフェースは、将来 Nome に物理的な拡張モジュールを接続した際に使用される予定です。たとえば MIDI IN モジュールを接続した場合、その MIDI IN 端子から入力されたデータをこれらのインターフェースへ転送することができます。

5.4 - MIDI フォワーディングインターフェース Out 1 & 2

「MIDI Out 1」または「MIDI Out 2」へ MIDI データを送信すると、そのデータは本体背面の対応する DIN-MIDI ポートへ転送されます。

この MIDI データは、Nome が生成する MIDI データとマージされるため、次のように動作します。

- クロック信号は最優先で処理され、他のデータの影響を一切受けません。
- Start/Stop メッセージも高い優先度で処理されタイミングどおりに送信されます。

MIDI System Common メッセージおよび MIDI System Realtime メッセージ（いずれも 0xFn で始まるもの）は、Song Select メッセージ（0xF3）を除き転送されません。

Note On/Off、Aftertouch、CC、PC、Channel Pressure、Pitch Bend など、その他の MIDI メッセージはすべて転送されます。

System Exclusive (SysEx) メッセージも転送されますが、最大 500 バイトまでに制限されています。SysEx メッセージはリアルタイムメッセージより優先度が低いため、より優先度の高いメッセージ（例：Start）を送信する必要がある場合、一時的に中断され、後から再送されることがあります。

5.5 - MIDI コマンド

「Commands」インターフェースへ MIDI メッセージを送信することで、Tempo を制御できます。

5.5.1 - テンポ変更

チャンネル 12 で **MIDI CC 85** と **CC 86** を使用し、次の計算式でテンポを設定します。 (128 x CC85) + CC86

- CC85 値 0 の後に CC86 値 30~127 を送信 → テンポ 30~127
- CC85 値 1 の後に CC86 値 0~127 を送信 → テンポ 128~255
- CC85 値 2 の後に CC86 値 0~127 を送信 → テンポ 256~383
- CC85 値 3 の後に CC86 値 0~16 を送信 → テンポ 384~400

例:

- テンポを 170 に設定するには、CC85 の値 1 を送信した後に CC86 の値 42 を送信します。
- その後、CC85 を送信せずに CC86 の値 117 を送信すると、テンポは 245 に設定されます。

または、同じくチャンネル 12 で MIDI CC 87、88、89 を使用する方法もあります。

- CC 87 (値 0~127) → テンポ 60~187 に設定
- CC 88 (値 0~127) → テンポ 100~227 に設定
- CC 89 (値 0~127) → テンポ 140~267 に設定

これらの MIDI メッセージを使用すると、テンポの小数値はすべて 0 にリセットされます (テンポは x.00 になります)。

5.5.2 - テンポ小数値の変更

Firmware 5.0 では、テンポの小数値が **1/100 単位 (x.00 ~ x.99) **まで設定できるようになりました。この小数値は MIDI CC を使用して設定することもできます。

- CC110 (値 0~99) → テンポの小数値を x.00~x.99 に設定

例えば、現在のテンポが 134.53 の場合、CC110 の値 27 を送信するとテンポは 134.27 に設定されます。

なお、テンポを変更する上記の MIDI メッセージ (CC86、CC87、CC88、CC89) を送信すると、テンポの小数値は 0 にリセットされます。

5.5.3 - 拍子の変更

チャンネル 12 で MIDI CC 90 を使用して拍子を設定します。

- CC 90 (値 1~32) → 拍子の分子を設定
- CC 90 (値 101~104) → 拍子の分母を設定
 - $101 = x/2$
 - $102 = x/4$
 - $103 = x/8$
 - $104 = x/16$
- 例えば CC 90 の値 6 と CC 90 の値 103 を送信すると、拍子は 6/8 に設定されます。

5.5.4 - メトロノームのミュート／解除

チャンネル 12 で MIDI CC 102 を使用し、次の値で設定します。

- 0 → メトロノームをミュート
- 1 → メトロノームのミュートを解除
- 2 → ミュート状態を切り替え (ミュート中なら解除、解除中ならミュート)

5.5.5 - アナログクロック速度の変更 (“An.1” および “An.2” 設定)

チャンネル 12 で MIDI CC 104 または 105 を使用し、次の値で設定します。

- CC 104 (値 0~109) → ANLG クロック 1 の速度を設定
- CC 105 (値 0~109) → ANLG クロック 2 の速度を設定

これは *An.1* および *An.2* 設定に対応しており、次の値が使用されます。

- CC 値 0 は *OFF* に対応します
- CC 値 1~8 は 「X ppqn」 設定に対応し、*'1*~*'24* の値に対応します
- CC 値 9~11 は、それぞれ *run*, *STA* と *RES* に対応します

- CC 値 12～109 は「X beats」設定に対応し、**2**～**99**の値に対応します。

詳細については、「基本設定一覧」セクションをご参照ください。

5.5.6 -テンポプリセットの適用

チャンネル 12 で **MIDI Program Change (PC)** を使用し、プリセット番号 (0～49) を指定して適用します。

または **MIDI Song Select メッセージ** を使用し、同様にプリセット番号 (0～49) を指定することもできます。

または、チャンネル 12 で **MIDI CC 106** または **107** を使用し、プリセット番号 (1～50) を指定して適用することもできます。

- PC 値 0～49 → プリセットを適用
- Song Select 値 0～49 → プリセットを適用
- CC 106 値 1～50 → プリセットを適用
- CC 107 値 1～50 → プリセットを即時適用

MIDI CC 106 および MIDI PC は、Play ボタンが点灯している場合、または本体がロックモードのとき（本体操作やペダル操作の場合と同様）、適用を待機します。一方、MIDI CC 107 はこれを無視してプリセットを即時適用します。

多くの機器やソフトウェアでは、CC の値は通常 0 から始まり、PC および Song Select は 1 から始まります。そのため、どの方法を使用する場合でも、機器に表示される番号がプリセット番号と一致するように設定してください。

5.5.7 -シーケンサーの開始／停止

- **MIDI Continue**: 次の小節で、MIDI ポート X⁽¹⁾ に接続された機器を(再)スタートします
- **MIDI Start**: クロックをリセット／巻き戻し⁽²⁾ し、MIDI ポート X に接続された機器をスタートします⁽¹⁾
- **MIDI Stop**: MIDI ポート X に接続された機器を停止します⁽¹⁾

- チャンネル 12 で, MIDI CC 103:
 - 0 = MIDI Continue と同じ
 - 1 = MIDI Continue と同じ (ポート 1 のみ)
 - 2 = MIDI Continue と同じ (ポート 2 のみ)
 - 10 = MIDI Stop と同じ
 - 11 = MIDI Stop と同じ (ポート 1 のみ)
 - 12 = MIDI Stop と同じ (ポート 2 のみ)
 - 20 = MIDI Start と同じ
 - 21 = MIDI Start と同じ (ポート 1 のみ)
 - 30 = MIDI Start と同じ (1 小節のカウントイン付き)
 - 31 = MIDI Start と同じ (1 小節のカウントイン付き・ポート 1 のみ)

(1) Port X = *PL. 1* 設定 (両方または Output 1 のみ) で選択された MIDI 出力ポートを指します。

(2) これは rES 設定とは独立して動作します。ただし、外部クロック (例: 24P モードや U-SYNC) に同期している場合、リセットやカウントインは実行できません。

これらの Start/Stop コマンドは、現在の再生状態や本体の設定に関係なく動作します

(特に  → *Adv* → *PL. 1* と  → *Adv* → *rES*).


この仕組みにより、シーケンサーを手動で開始している場合でも、MIDI Stop を送信すれば停止させることができます。また、再同期メッセージ (=Play ボタンを長押しした場合と同じ動作) を送信したい場合は、MIDI Continue を送信することで実行できます。

注意: DAW が送信するトランスポートメッセージとの競合を避けるため、本体が U-SYNC プラグインに接続されており、かつ Auto-Play が有効になっている場合、MIDI Start/Continue/Stop コマンドは無効になります。ただし、MIDI CC コマンド (CC 103 を含む) は常に有効です。

6. 外部同期 — 他の機器や DAW に同期する

Nome は **マスタークロックとして使用することを前提に設計されています**。可能な限り、Nome をマスターとして使用することを推奨します。ただし、状況によってはそれができない場合もあります。本セクションでは、**Nome を他の機器に同期させて動作させる方法**について説明します。

6.1 - アナログクロックまたはオーディオ信号への同期

 → **inP** 設定を **1P ~ 24P** のいずれかに設定すると、本体の「INPUT」端子に入力されたアナログ信号またはオーディオ信号に Nome を同期させることができます。

アナログ同期信号は、**X ppq** (parts per quarternote) で送信される短く大きな音、またはアナログパルスであれば使用できます。例えば、一定間隔で送信される録音済みのクリック音や、モジュラーシンセやヴィンテージシンセから送信される 5V のアナログクロックなどが該当します。使用可能な信号速度 **X (ppq)** は次のとおりです。

1P 2P 3P 4P 6P 8P 12P 24P

パルスは鋭く短いものにしてください。そうでない場合、1つのパルスが2つとしてカウントされる可能性があります。

この方法を使えば、MIDI を使用せずに Nome を他の機器へ同期させることができます。例えば、テープマシン、ハードウェアレコーダー、DJ ターンテーブル、SPD ドラムパッド、ソフトウェアなどに同期させることが可能です。

重要：Nome は楽曲などの任意のオーディオ信号に同期することはできません。同期には、一定間隔で送られるパルス信号が必要です。任意のオーディオに同期する方式は一般的に「Beat Detection」と呼ばれます。

ただし将来的には、



→ *inP* 設定を *FOL* にすることで、ドラムのビートを追従する「Tempo Following」機能が Nome でも使用可能になる予定です。

6.2 - U-SYNC を使用した DAW との同期 (Mac)

ハードウェアを DAW に同期させる作業は、これまでになく簡単になりました。Firmware 3.0 では、**U-SYNC** と名付けられた非常に革新的な機能が追加されています。

U-SYNC の設定方法については、専用の **PDF マニュアル** が用意されています。

注：現在のところ、U-SYNC は Mac のみ対応しています。Windows では、24P モードと旧プラグインを使用する必要があります。

6.3 - 24P モードを使用した DAW との同期 (Windows)

Windows を使用している場合、または使用している DAW が U-SYNC に対応していない場合は、「**Midronome**」プラグインを使用して同期することができます。このプラグインは **24 ppq のアナログ (オーディオ) パルス**を送信するため、Nome はそれを **アナログクロックと同様に同期信号**として利用できます。このプラグインは、名称に関わらず **Nome I と Nome II の両方の世代に対応**しています。

注：この「Midronome」プラグインはオープンソースです。バグを見つけた場合は、GitHub ページで報告したり、自分で修正することもできます。VST/AU/AAX ファイルも GitHub ページからダウンロードできます。

プラグインをインストールしたら、次の手順を行ってください。

- DAW のトラックにプラグインを読み込みます
- そのトラックが、オーディオインターフェースの専用 (物理) 出力ヘルパーティングされるよう、DAW とオーディオインターフェースを設定します
- その出力には、このトラックのみが送信されるようにしてください

- その出力の音量が十分に大きいことを確認してください
- その出力から Nome の「INPUT」端子へケーブルを接続します
- Nome で **24P モード** を有効にします

その後、DAW で再生を開始すると、Nome の「**SYNC**」LED が点灯し、DAW のタイミングに同期して動作します。

旧プラグインの設定方法については、GitHub ページにある Firmware 2.0 用の旧 PDF「How to sync with DAWs」をご参照ください。

6.4 - USB 経由の MIDI を使用して DAW を Nome に同期する


U-SYNC や 24P モードを使用すると、Nome が DAW に同期して動作します（つまり **DAW がマスター** になります）。しかし、逆に **DAW を Nome に同期させる**（つまり Nome をマスターにする）ことを望む場合もあるでしょう。

Nome は USB 経由で MIDI Clock を送信します。この MIDI Clock を使用して、DAW を Nome に同期させることができます。設定方法については、お使いの DAW のドキュメントをご参照ください。例えば、Ableton の場合は公式ドキュメントの「Syncing Live to another device or application」セクションで設定方法が説明されています。

多くの DAW には同期遅延を調整する設定があります。これについても、お使いの DAW のドキュメントをご参照ください。なお、以下の点にご注意ください。

- 現時点では、この機能に対応しているのは Ableton、Bitwig、FL Studio、Reason のみです。
- このタイプの同期は、それほど高い精度ではありません。

6.5 - シーケンサーの自動開始／停止


 → *APL* 設定を使用すると、同期の開始および停止時に Play ボタンが自動的に「押された」状態にすることができます。この設定を有効にすると、DAW への同期でもアナログ／オーディオ信号への同期（1～24 ppq、つまり **1P - 24P** 設定）でも、同期の開始および停止に合わせて、Nome が物理 MIDI 出力ポートへ Start／Stop メッセージを自動送信します。

Firmware 4.0 以降、自動的に開始する出力ポートを選択できるようになりました。

- *bot* → MIDI Output 1 と 2 の両方を開始
- *m1* → MIDI Output 1 のみ開始
- *m2* → MIDI Output 2 のみ開始

他の機能と同様に、Analog Output 1（ANLG プラグの左側）および Analog Output 2（右側）は、それぞれ対応する MIDI 出力に追従するため、この設定の影響を受けます。

注:

- 複数の Nome を同期して使用している場合、この設定はマスター Nome の Play 操作に対するフォロワー側の Nome の動作にも影響します。
- カウントオフ設定  → *Cnt* が *iw*（ミュート時にカウントオフ開始）に設定されている場合、Autoplay 設定によって、カウントオフ後に開始される MIDI／ANLG 出力が決まります。





7.追加機能

7.1 - 複数の Nome の同期



より多くの出力を使用するために、複数の Nome を同期させることができます。この同期は一方のみで、1 台の Nome がマスターとなり、他のすべての Nome がそれに追従します。テンポおよび拍子の分子はマスター側でのみ変更可能であり、拍子の分母は各フォロワー側の Nome で個別に設定できます。


同期できる Nome の台数に実質的な制限はありません（実際には 36 台でテストされています）。また、この機能は Nome I と Nome II の任意の組み合わせで使用できます。

設定手順は次のとおりです。

- マスター側の Nome:
 -  → **CL 1** 設定を選択し、値を 59 に設定します
 -  を 1 秒間長押しします
 - 値が 59 から **59n** に変わります
- 各フォロワー側の Nome では:
 -  → **inP** 設定を選択し、**24P** に設定します
 -  を 1 秒間長押しします
 - 値が **24P** から **59n** に変わります

次に、マスター側の Nome の AUDIO 端子から、各フォロワー側の Nome の INPUT 端子へ 6.35mm ジャックケーブルを接続します（2 台以上の Nome を同期する場合は Y スプリッターケーブルを使用してください）。

最良の結果を得るため、マスター側の Nome ではオーディオ出力スイッチ  を Line Out () に設定してください。



マスター Nome が再生中のときにフォロワー側の Nome も自動的に再生させるには、上記の  → **A.P.L** 設定に関するセクションをご参照ください。

7.2 - テンポ小数値


Firmware 5.0 以降、テンポは小数第 2 位(x.00 ~ x.99)まで設定できるようになりました。

テンポの小数値は、以下の操作にも対応しています：

- タップテンポ時に自動設定されます
- テンポプリセットに保存されます
- U-SYNC 1.4 以降でサポートされています
- MIDI CC コマンドで変更可能です

本体で  を 1 回押すと、テンポ小数値の表示画面が開きます。ディスプレイにはドットと BPM の小数部分「.xx」が表示されます。例えば、現在の BPM 表示が **108**, の状態で  を押して **.74** と表示された場合、実際のテンポは 108.74 BPM を意味します。

注：



-  を押しながら回すことで、小数値をすばやく調整することもできます。
- 新しい BPM の整数値に変更する際の動作
 - 速く回すと小数値はリセットされます（例：120.46 → 125.00）
 - ゆっくり回すと小数値は維持されます（例：120.46 → 121.46）（これは意図しない操作で小数値がリセットされるのを防ぐための仕様です）

7.3 - カウントインとカウントオフ

Nome では、カウントイン（Firmware 4.5 以降）および、カウントオフ（Firmware 5.0 以降）の両方を使用できます。




7.3.1 - カウントイン：Nome によるカウント

カウントインとは、Play ボタンを押した際に、本体が開始前に 1 小節分のカウントを行ってから再生を開始する機能です。

- これを有効にするには、 → *Adu* → *rES* 設定を *Cnt* に設定します
- さらに、メトロノームが自動的にミュート解除されるよう、 → *Adu* → *Mute* 設定も *F.O.L.* に設定します
(いずれも詳細設定です)
- その後、Play ボタンを押すとすぐにカウントインが開始され、1 小節分のメトロノームが再生された後、次の小節で機器がスタートします。

7.3.2 - カウントオフ：演奏者によるカウント

カウントオフはカウントインとほぼ同様ですが、カウントインの 1 小節分を自分でタップ入力する点が異なります。この機能は、楽曲の開始位置とテンポを同時に設定するのに有効であり、曲の冒頭だけでなく、すでに進行しているライブのテンポに合わせる場合にも役立ちます（詳細は下記セクション参照）。

- これを有効にするには、 → *Cnt* 設定で任意の値を選択します
 - この設定は、タップ入力によってカウントが開始されるタイミング、またはテンポが調整されるタイミングを決定します。
 - 例えば、これを *MIDI 1* (MIDI Out 1) に設定すると、次のようになります：
 - MIDI 出力 1 が停止中にタップするとカウントオフが開始されます
 - 出力が再生中にタップするとテンポが調整されます
- 次に拍子を設定し、1 小節分を正確にタップします（例：1、2、3、4）
- 次の小節で、本体が制御を引き継ぎ、すべての機器がスタートします
 - どの MIDI/ANLG 出力が開始されるかは、 → *Cnt* 設定で指定された内容に従います
 - *Mute* に設定されている場合、メトロノームはミュート解除され、開始される出力は  → *APL* のオートプレイ設定で指定されたものになります。

- 注：演奏者のタイミングがわずかにずれた場合に「クリックのフラム（重なり）」が発生するのを防ぐため、メトロノームは最初の拍の後にミュート解除されます。
- その後は、タップ入力によってテンポが調整され、演奏に合わせて同期されます
- ペダルまたはドラムパッドをダブルタップすると停止（および／またはミュート）します
 - この動作は、カウントオフ後に行われた操作と逆の処理になります

7.4 - Smart Tap Tempo によるライブタイミングへの追従

Firmware 5.0 以降、すでに進行しているライブのテンポを「捉えて」同期することができるようになりました。これは、メトロノームを使用しないライブ演奏や、1~24 ppq の同期信号を出力できない機器と一緒に演奏する場合に非常に有効です。

テンポを捉える前に、まず Nome の開始タイミングを正しく設定しておくことを推奨します。そのためにはカウントオフを使用してください。

その後、再生が始まったらタップするだけで、Smart Tap Tempo アルゴリズムがテンポだけでなくタイミングもタップに合わせて調整します。同期が追いつくまでに数拍かかる場合がありますが、音楽と合うまでタップを続けてください。


注： **SYNC** は色の変化によって、タップの正確さを示します：

- Perfect **Green**：タップが Nome の内部タイミングと一致しています
- Perfect **Red**：タップが少なくとも 50% 以上ずれています
- その中間：緑 → 黄色 → 赤 といった色の変化で、ずれの程度が示されます

Nome は、可能な限りテンポを安定させつつ、タップの変化に応じてテンポを調整できるように動作します。これを実現するため、タップの間隔が一定かどうかを検出します：

- タップの間隔が一定の場合は、強い平均化処理が行われます。そのため、タップを続けるほどテンポはより安定します
- 一方、タップが不規則な場合は平均値がリセットされ、テンポが素早く変化してタップに追従します

Pro Tip: 平均化処理を一時的に無効にしたい場合は、タップ中に Setup ボタンを押し続けてください。これにより、テンポをより素早く変更できます。

注：ベータ版ファームウェアでは、アルゴリズムの内部動作を確認できる追加機能が用意されています。Nome がタップテンポの平均値を「リセット」するたびに、 が赤く点灯します。この挙動を確認することで、リセットのタイミングを把握できます。

この機能は、通常版（非ベータ版）のファームウェアには搭載されていません。

7.5 - Time Nudging による外部機器とのタイミング調整

前述の Smart Tap Tempo は、ライブ演奏者などのようにテンポが変動する、または不明なソースに対して非常に有効です。

しかし、DJ ターンテーブルのように正確な BPM を持つ機器と同期する場合は、次の方法が推奨されます：

1. Nome 側で同じ BPM（小数第 2 位まで）を設定する
2. Time Nudging を使用してタイミングを合わせる

タイミングを微調整（Nudge）するには、 を押しながら  または  を押しします。左側のボタンで後ろ方向へ、右側のボタンで前方向へ調整されます。


この操作により、テンポを変更することなく Nome のタイミングを「ずらす」ことができます。ボタンを長く押すほど（Setup ボタンは離しても構いません）、調整の速度は速くなります。

 および  の 2 つのボタンは、ナッジの速度に応じて緑から赤へと色が変わります。

7.6 - 「Tempo Following」モードによるライブドラマーへの追従

この機能は現時点では未実装であり、設定内のオプション（「FOL」）も非表示となっています。本機能は将来のファームウェア（おそらく 6.0）での実装が予定されていますが、現時点ではリリース時期は未定です。

7.7 - Nome の電源オフ

Nome の電源をオフにするには、 を 2 秒間長押しします。するとディスプレイに「OFF in 3 2 1」と表示され、その後電源がオフになります。

再度電源を入れるには、,  または  のいずれかのボタンを押してください。

8. Nome ファームウェアの更新

8.1 - 更新する理由

新しいファームウェアは定期的にリリースされており、現時点ではすべて無料で提供されています。

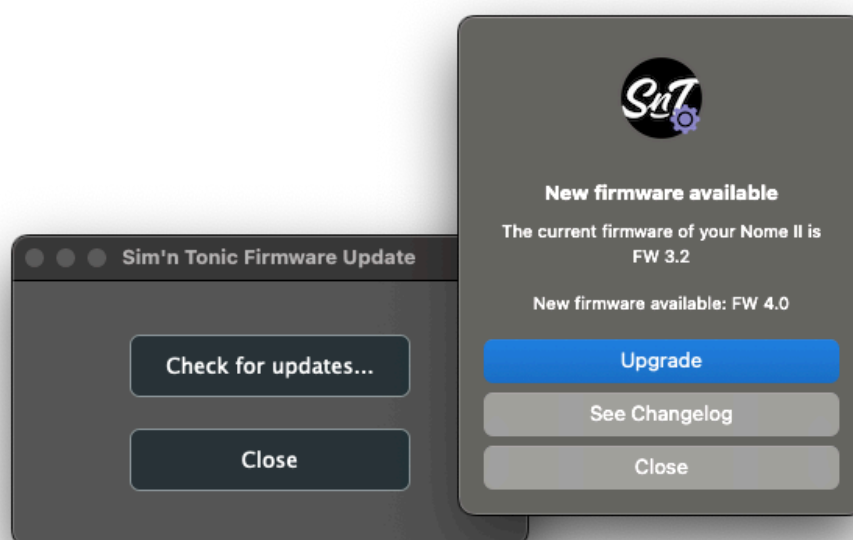
これまで一度も更新していない場合、古いファームウェアを使用している可能性があり、最新バージョンへ更新することで新機能やバグ修正を利用できます。

詳細については、Nome ファームウェアの変更履歴（Changelog）をご確認ください。

8.2 - 更新方法

Nome のファームウェア更新は非常に簡単です:

- Firmware Update ツールをダウンロードします
- ツールを起動し、「Check for updates...」をクリックします



U-SYNC Daemon や Sim'n Tonic Config Tool を使用して更新することもできます。

8.3 - カスタム／ベータ／アルファファームウェアの読み込み方法

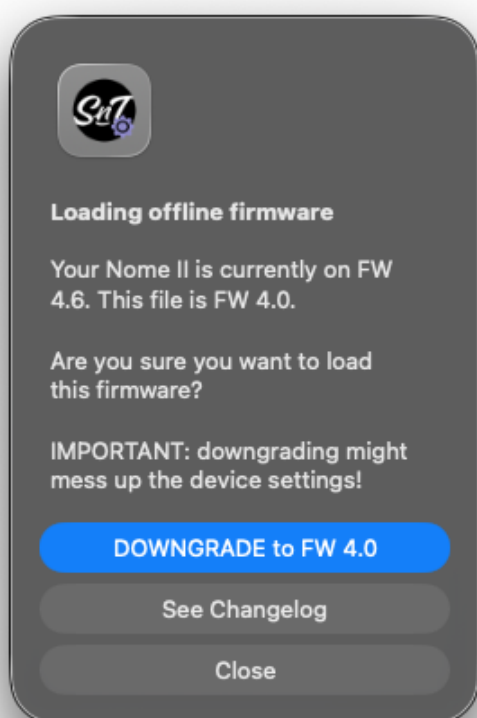
前述の Firmware Update ツールは、デフォルトでは Nome を最新のファームウェアへ更新します。

別のファームウェアを Nome に読み込みたい場合は、次の手順を行ってください:

1. 特定の .fw ファームウェアファイルをダウンロードします（ファイル名は変更しないでください）
2. ツールを起動します
3. 「Check for updates...」を右クリックし、選択した .fw ファイルを読み込みます



「Check for updates...」を再度左クリックすることで、いつでも最新のファームウェアに戻すことができます。



重要：どのファームウェアに切り替えても、本体が損傷することなく、正常に動作します。

ただし、ダウングレードを行うと（バージョンによっては）設定が乱れる可能性があります。また、ダウングレード後に同じバージョンへ再度アップグレードした場合も、設定が乱れることがあります。

（その後、さらに新しいバージョンへアップグレードした場合は、通常どおり設定は保持されます。）

いずれの場合も、元の設定内容を控えておき、必要に応じて再設定できるようにしておくことを推奨します。

8.4 - トラブルシューティング

本機がいわゆる「ブリック状態」（使用不能になる状態）になることはありません。問題が発生した場合は、ケーブルを抜いて再接続し、更新をやり直してください。更新処理は通常、15～20 秒以内で完了します。

デバイスが認識されない場合は、USB ケーブルを確認し、OS 上でデバイスが認識されているかを確認してください（Windows の「デバイス マネージャー」、Mac の「Audio MIDI 設定」）。また、デバイスの再接続も試してください。

いずれの方法でも解決しない場合は、次の手順で本体を「アップデートモード」に強制的に移行できます：

- USB ケーブルを抜きます
- TAP ボタンと 2 つの Play ボタンを同時に押し続けます
- その 3 つのボタンを押したまま USB ケーブルを再接続します
- 約 4 秒間待ちます（この間、画面は表示されません）

4 秒経過後、本体はアップデートモードで起動します：

- 正常に接続されている場合、ディスプレイに「rdY」と表示されます
(表示されない場合は、USB 接続／ケーブル、および OS 側での認識状況を確認してください)

その後、ソフトウェアツールから再度アップデートを実行してください。

9. エラー報告およびファームウェアクラッシュ

どんなに小さなものでも、不具合を見つけた場合はぜひ報告してください。大きな助けになります。報告は **Sim'n Tonic Bug Reporting フォーラム** で行えます。

ファームウェアがクラッシュした場合、ディスプレイには「**Er.X**」（Xは2~9）が表示されます。これは、ハードウェアの問題またはファームウェアのバグによって発生する可能性があります。

万が一発生した場合（現時点ではまだ発生していません！）、MUTE ボタンを押すだけでNome は再起動します。ただし、本体にはクラッシュに関する情報が保存されますので、そのような事象が発生した場合は support@simntonic.com までご連絡ください。

ご協力ありがとうございます。